

奥村克三教授略歴・主要著作目録

略 歴

- 1933年1月3日 京都市で生まれる。
- 1945年4月 京都市立松原中学校入学。
- 1948年4月 学制改革で同校は京都市立中京高等学校に。同校1年。
- 1948年10月 学区制改変で京都府立鴨沂高等学校に編入。
- 1951年3月 同校卒業。
- 1951年4月 大阪外国語大学ロシア語科入学。
- 1955年3月 同大学卒業。
- 1955年4月 早稲田大学大学院文学研究科（ロシア文学専攻）修士課程入学。
- 1957年3月 同課程を修了。
- 1960年春～1965年 京都市で半職業劇団『人間座』に所属し、演劇活動。
- 1964年9月 繊維業界紙「大阪織研速報」に編集記者として入社。
- 1971年9月 同上退社。この間、67年4月より大阪外大二部非常勤講師。
- 1971年～1973年3月 大阪外大、神戸大第二課程で非常勤講師。
- 1973年4月 福井大学講師（教育学部）。
- 1974年8月 同上助教授（同上）。
- 1977年3月 同上退職。
この間、75年4月より福井県立短期大学非常勤講師。
- 1977年4月 立命館大学経済学部助教授。
- 1979年4月 同上教授。
この間、大阪外大、京都大（教育学部）、京都橘女子大で非常勤講師。
- 1998年3月 立命館大学定年退職。

学 内 役 職

- 1984年4月～1985年3月 経済学部主事。
- 1987年1月～1987年12月 教職員組合委員長。
- 1991年4月～1993年3月 国際言語文化研究所所長。
そのほか、経済学部調査委員長、外国語教科連絡協議会調査委員長、国庫負担委員会副委員長、入学試験総主査。

学 会 活 動

- 1967年10月 日本ロシア文学会員。
- 1977年10月 同上評議員（90年10月まで）。

- 1982年～89年 学会誌「ロシア語ロシア文学研究」編集委員。
 1990年10月～1997年10月 日本ロシア文学会理事。同会関西支部運営委員。
 1978年～1997年 The Japanese Society for Slavic and East European Studies (略称 JSSEES)
 の創立準備時からのメンバー。(理事, 年刊欧文研究誌編集委員)

在 外 研 究

- 1976年8月 モスクワ, ウラジーミル, スフミ (当時グルジア共和国)
 1983年11月～1984年2月 モスクワ, レニングラード (当時), 東ベルリン (当時), ワルシャワ,
 プラハ, ブダペスト, 西ドイツ (当時)
 1988年9月～1989年9月 モスクワ, レニングラード (当時), ワルシャワ, ソフィヤ, 西ドイ
 ツ (当時), ロンドン

演 劇 活 動

- 1954年6月 くるみ座小さな劇場『海拔3200米』
 1960年6月 人間座公演; モリエール作『孤客』(舞台監督)
 1960年11月 同上; 真船豊『遁走譜』
 1961年6月 同上; 馬淵実『誘拐』
 1962年2月 同上; 上芝広『幸せな人々』
 1962年7月 同上; クブリャノフ『わたしの兄弟』(翻訳, 演出)
 1963年1月 同上; 中川裕朗『ある恋の物語』
 1963年11月 同上; 乾一雄『人間裁判』
 1964年5月 同上; 伊賀山昌三『結婚の申込』(演出)
 1965年3月 同上; 田中茂『海の女』

著 書

- 1981年7月 『プーシキン生誕180年記念論集』(共著。国本哲男, 法橋和彦編・ナウカ社)
 1982年9月 『1930年代世界の文学』(共著。永原誠編・有斐閣)
 1983年7月 『ロシア世界—その歴史と文化』(共著。国本哲男, 小野堅, 奥村剋三編・世界思想
 社)
 1985年11月 『ヨーロッパ現代文学を読む』(共著。川上勉ほか・有斐閣)
 1986年6月 『外国語のすすめ』(共著。奥村剋三編・大月書店)
 1987年12月 『プーシキン再読』(共著。法橋和彦編・創元社)
 1994年10月 『現代文学理論を学ぶ』(共著。川上勉編・世界思想社)
 1995年3月 『『米欧回覧実記』を読む—1870年代の世界と日本』(共著。西川長夫, 松宮秀治
 編・法律文化社)
 1995年3月 『幕末・明治期の国民国家形成と文化受容』(共著。西川長夫, 松宮秀治編・新曜
 社)
 1996年4月 『文化の再生と変容』(共著。木村一信, 奥村剋三編・法律文化社)

論 文

- 1972年 「スタニスラフスキー・システム考察—『紅旗』の「システム」批判に関連して」（『ロシア・ソビエト研究』第7号・大阪外国語大学ロシア語研究室）
- 1973年11月 「トルストイの『戦争と平和』」（福井大学教育学部紀要第23号〈外国語・外国文学篇〉）
- 1974年11月 「A. S. プーシキンの虚曲観」（福井大学教育学部紀要第24号〈外国語・外国文学篇〉）
- 1975年11月 「青春と演劇—プーシキンのドラマイウルギー」（福井大学教育学部紀要第25号〈外国語・外国文学篇〉）
- 1978年10月 「トルストイとスタニスラフスキイ」（『ロシア語ロシア文学研究』第10号・日本ロシア文学会）
- 1979年3月 「トルストイの『戦争と平和』—ボグチャーロヴォの農民暴動」（『外国文学研究』立命館大学・第45号）
- 1979年7月 「プーシキンの『石の客』Ⅰ」（『外国文学研究』立命館大学・第46号）
- 1981年12月 「スタニスラフスキイ論」（『外国文学研究』立命館大学・第52・53合併号）
- 1987年5月 「プーシキンの『石の客』Ⅱ」（『外国文学研究』立命館大学・第76号）
- 1988年3月 「プーシキンの『石の客』Ⅲ」（『外国文学研究』立命館大学・第79号）
- 1988年8月 「芸術におけるペレストロイカーシャトロフの二つの戯曲」（立命館大学人文科学研究紀要第46号）
- 1990年5月 「プーシキンの歴史観の変遷」（日本プーシキン学会学会報第10号）
- 1991年6月 「プーシキンとポーランド問題」（日本プーシキン学会学会報11号）
- 1991年10月 「ペレストロイカとソビエト文化」（『日本の科学者』通巻285号）
- 1992年12月 「ロシアの東洋学—ニコライ・コンラド」（『立命館言語文化研究』4巻・2～3号）
- 1994年9月 「1935年、劇作家プーシキン発見」（『立命館言語文化研究』6巻・2号）
- 1994年12月 「詩人と思想家」（『立命館経済学』第43巻第5号）
- 1995年12月 「キルギスタンの叙事詩『マナス』と辺境の知識人」（『立命館経済学』第44巻第4・5号）
- 1996年3月 「プレヒトとスタニスラフスキイ」（『政策科学』別冊・辻善夫教授退任記念論集・立命館大学政策科学会）
- 1997年6月 「『桜の園』と先行作品」（『立命館産業社会論集』第33巻第1号）

翻 訳

- 1962年 戯曲『わたしの兄弟』（イワン・クプチャーノフ作・ロシア共和国作家同盟機関誌『オクチャブリ』1960年11月号所載）（人間座上演台本）
- 1964年 書評『ルナチャルスキイ8巻選集，1，2巻文芸学，批評，美学』（レペヂェフ）（雑誌『ソヴェート文学』第1号）
- 1965年2月 評論「スタニスラフスキイによる『方法』の探求」（プロコフィエフ）（雑誌『ソヴ

- ェート文学』第2号)
- 1965年5月 「神々との別れ」(ルイトヘウ)(『ソヴェート文学』第3号)
- 1969年5月 「片ちんばのわらじ」(ストレリツォフ, 阿部軍治との共訳)(『ソヴェート文学』第25号)
- 1970年4月 「レーニンの人—チングス・アイトマートフへのインタビュー」(『ソヴェート文学』第30号)
- 1972年1月 評論「時代のつながり」(オスコツキイ)(『ソヴェート文学』第40号)
- 1974年3月 「三つのおはなし」(バルーズヂン)(『ソヴェート文学』第47号)
- 1975年12月 「肉体の表皮」(クヴァーエフ)(『ソヴェート文学』第54号)
- 1976年12月 「バイグール学校」(ヴォルコフ)(『ソヴェート文学』第58号)
- 1977年9月 「オロンホ」(コプチャーエフ)(『ソヴェート文学』第61号)
- 1977年12月 評論「巨匠マルシャーク」(ミハイロフ)(『ソヴェート文学』第62号)
- 1978年9月 評論「トルストイの『散文詩』」(ドミートリエフ)(『ソヴェート文学』第65号)
- 1978年3月 「『アンナ・カレーニナ』をめぐる間問題」(エイヘンバウム)(河出書房新社『トルストイ全集』別巻『トルストイ研究』)
- 1980年6月 評論「ショーロホフの世界と現代世界」(ゲーラ)(『ソヴェート文学』第72号)
- 1980年9月 ルポルタージュ「ダイヤモンド」(コプチャーエフ)(『ソヴェート文学』第73号)
- 1984年12月 評論「ソヴェート文学と20世紀芸術の実験」(アナスターシェフ)(『ソヴェート文学』第90号)
- 1985年 評論「心安まらぬ探求の三部作」(チチェーリン)
 評論「海のイメージ」(カミヤーノフ)
 評論「『戦争と平和』の外形描写の独自性」(ハーリゼフ)
 (以上3点、『レフ・トルストイと現代』モスクワ・ラドガ出版所刊)
- 1992年4月 「アイヴァンゲー(抄訳)」(ルイトヘウ)(『グリオ』第3号)

口 頭 発 表

- 1968年6月 「スタニスラフスキーの演劇—〈行動〉の概念の一考察」(日本ロシア文学会関西支部例会・於神戸外国語大学)
- 1976年11月 「メイェリホリドとプーシキン」(日本ロシア文学会中部支部例会・於金沢大学)
- 1990年3月 「プーシキンの歴史主義(歴史観の変遷)」(日本プーシキン学会・於早稲田大学)
- 1991年3月 「プーシキンとポーランド問題」(日本プーシキン学会・於早稲田大学)

エ ッ セ ー

- 1973年2月 「1812年と1825年」(大阪労演機関紙 No. 286・例会俳優座『戦争と平和』)
- 1978年12月 「トルストイと教育」(『窓』第27号, ナウカ)
- 1985年9月 「国際化ということ」(『むうざ』第3号, ロシア・ソヴェート文学研究会発行)
- 1986年7月 「ベルリンの思い出」(『むうざ』第4号)
- 1990年6月 「アウシュヴィツ行」(『むうざ』第9号)

1991年6月 「シチェルイコヴォの危機」（『むうざ』第10号）

1993年3月 「艦長ゴロヴニンのこと」（『むうざ』第12号）